

令和6年度

地理歴史科（日本史探究）

北海道穂別高等学校

シラバス

科目名	日本史探究	履修学年	学年（必修）選択
教科担任	折原 拓真	単位数	3 単位
教科書名	精選日本史探究（実教出版）	副教材	詳説 日本史図録 第10版 （山川出版社）
教科目標	社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。		
科目目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。		
学習方法	授業の前に教科書を一読し、学習内容を把握すると理解度が高まります。また、授業後使用したノート・プリント等に目を通し、繰り返し復習することで、年4回の定期試験と日常の授業に対応することができますのでそのような学習を心がけてください。評価は、考査、課題・プリント、小テスト、その他の諸課題の取り組み内容、ノート提出などで総合的に判断します。		

科目全体の評価の観点及び方法

評価の観点		主な評価方法
① 知識・技能	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。 (評価の割合 4 割)	a 試験 c 課題・プリント d 小テスト
② 思考・判断・表現	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、デントウオ文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。 (評価の割合 3 割)	b 授業態度 c 課題・プリント e その他
③ 主体的に学習に取り組む態度	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深める。 (評価の割合 3 割)	b 授業態度 c 課題・プリント e その他

※評価方法【a 考査 b 授業態度 c 課題・プリント d 小テスト e その他】

特に重視する方法

年間学習計画

単 元	原始・古代の日本と東アジア (予定時数 20)
主な学習内容（活動）	第1章 国家のと文化の形成 第2章 古代国家の確立
評価の観点と評価方法	①・旧石器文化から縄文文化への変化、弥生文化の成立を基に、黎明期の日本列島の歴史的環境と文化の形成、原始社会の特色を理解する。 ・国家の形成と古墳文化、律令体制の成立過程と諸文化の形成などを基に、原始から古代の政治・社会や文化の特色を理解する。 ・貴族政治の展開、文化、地方支配の変化や武士の出現などを基に、律令体制の再編と変容、古代の社会と文化の変容を理解する。 ②・自然環境と人間の生活との関わり、中国大陆・朝鮮半島などアジア及び太平洋地域との関係、狩猟採集社会から農耕社会への変化などに着目をして、環境への適応と文化の形成について、多面的・多角的に考察し、表現する。 ・原始、古代の特色を示す適切な歴史資料を基に、資料から歴史に関わる情報を収集し、読み取り、表現する。 ・黎明期の日本列島の変化に着目して、原始社会の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現する。 ・中国大陆、朝鮮半島との関係、隋、唐など中国王朝との関係と政治や文化への影響などに着目をして、主題を設定し、小国の形成と連合、古代の国家の形成の過程について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する。 ・地方の諸勢力の成長と影響、東アジアとの関係の変化、社会の変化と文化との関係などに着目して、主題を設定し、古代の国家、社会の変容について事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する。 ③・歴史資料の特徴を踏まえ、資料を通して読み取れる情報から、原始古代の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現する活動に主体的に取り組む。

単 元	中世の日本と世界 (予定時数 25)
主な学習内容（活動）	第3章 中世社会の成立 第4章 中世社会の展開
評価の観点と評価方法	①・荘園公領制が成立する過程を理解させる。 ・武士が権力を獲得し台頭する過程を理解させる。 室町幕府の性格と対外関係の特徴を理解させる。 ・南北朝時代の文化と北山文化の特徴を理解させる。 ・室町時代の流通経済の発達過程を理解させる。 ・室町幕府の衰退と戦国時代の始まりを理解させる。 ・東山文化と地域文化の発展・特徴を理解させる。 ・桃山文化の特徴を理解させる。 ・徳川幕藩体制の特徴を理解させる。 ②・蒙古襲来が鎌倉幕府に与えた影響について考えさせる。 ・執権政治と悪党の出現の関係性を考えさせる。 ・鎌倉幕府滅亡後、南北朝の内乱が長い間続いた理由を考えさせる。 ・惣村を基盤とする一揆が起こった理由を考えさせる。 ・大航海時代とはどのような時代か考えさせる。 ・豊臣政権の朝鮮侵略などの意味を考えさせる。

	・江戸時代初期の対外政策について考えさせる。 ・武士と百姓の関係を考えさせる。
	③・御家人制度を基盤とする鎌倉政権の意義をとらえさせる。 ・農工業の発達と流通の発展の関係をとらえさせる。 ・鎌倉時代の文化と仏教の特徴をとらえさせる。 ・惣村が形成されていく意義と特徴をとらえさせる。 ・織田信長の天下統一政策の特徴をとらえさせる。 ・豊臣秀吉の天下統一政策の特徴をとらえさせる。 ・徳川家康の政権樹立過程をとらえさせる。 ・歴史資料の特徴を踏まえ、資料を通して読み取れる情報から、中世社会の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現する活動に主体的に取り組む。

単 元	近世の日本と世界 (予定時数 24)
主な学習内容 (活動)	第5章 統一政権の成立 第6章 幕藩体制の展開
評価の観点と評価方法	①・徳川吉宗と田沼意次の政策の特徴を理解させる。 ・百姓一揆や打ちこわしの背景を理解させる。 ・文化・文政時代の文化の特徴を理解させる。 ②・幕府はなぜ文治政治に転換したのか考えさせる。 ・民衆はどのように生産を高めたのか考えさせる。 ・町人文化はなぜ発展したのか考えさせる。 ・国学や蘭学が誕生した背景と特徴を考えさせる。 ・外国船が日本に何を求めてきたか考えさせる。 ・天保の改革はなぜ失敗したのかを考えさせる。 ③・流通の発展の特徴をとらえさせる。 ・歴史資料の特徴を踏まえ、資料を通して読み取れる情報から、近世の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現する活動に主体的に取り組む。

単 元	近現代の地域・日本と世界 (予定時数 21)
主な学習内容 (活動)	第7章 大日本帝国の展開 第8章 大日本帝国とデモクラシー 第9章 アジアの戦争と第二次世界大戦 第10章 現代日本社会の形成と展開
評価の観点と評価方法	①・近代文化の特徴を理解させる。 ・大正デモクラシーの特徴を理解させる。 ・第一次世界大戦を日本の動きを知る。 ・民衆文化が発展したことを理解させる。 ・国民が戦争に総動員される過程を理解させる。 ・占領政治の特徴を理解させる。 ・民主化政策の転換の背景を理解させる。 ・朝鮮戦争の日本への影響を理解させる。 ・高度経済成長の光と影を理解させる。 ・戦後の文化の特徴を知る。

	②・日本が欧米列強のような植民地主義をとっていく過程を考えさせる。 ・日露戦争の性格と特徴を考えさせる。 ・朝鮮の植民地化と意味を考えさせる。 ・産業革命の影響を考えさせる。 ・朝鮮や中国から日本への批判が強められたのはなぜか考えさせる。 ・社会運動の高揚の意味を考えさせる。 ・日本軍は中国で何をしたか考えさせる。 ・「大東亜共栄圏」はどんなものか考察する。 ・15年戦争の影響を考えさせる。 ・敗戦の意味を考えさせる。 ・新憲法の誕生の背景を考えさせる。 ・日本の「独立」の特徴を考えさせる。 ・新安保反対運動が起こった理由を考えさせる。 ・沖縄から戦後を考えさせる。 ・湾岸戦争の影響・変化を考えさせる。 ・バブル経済の特徴を考えさせる。 ・21世紀の日本社会の特徴と課題を考えさせる。 ・21世紀のアジアと日本の関係について考えさせる。
	③ ・財閥が生まれた背景をとらえさせる。 ・戦争と文化の圧迫をとらえさせる。 ・高度経済成長とその後の様子を知る。 ・経済大国化がもたらしたものをとらえさせる。 ・歴史資料の特徴を踏まえ、資料を通して読み取れる情報から、近現代の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現する活動に主体的に取り組む。